

環境への影響調査

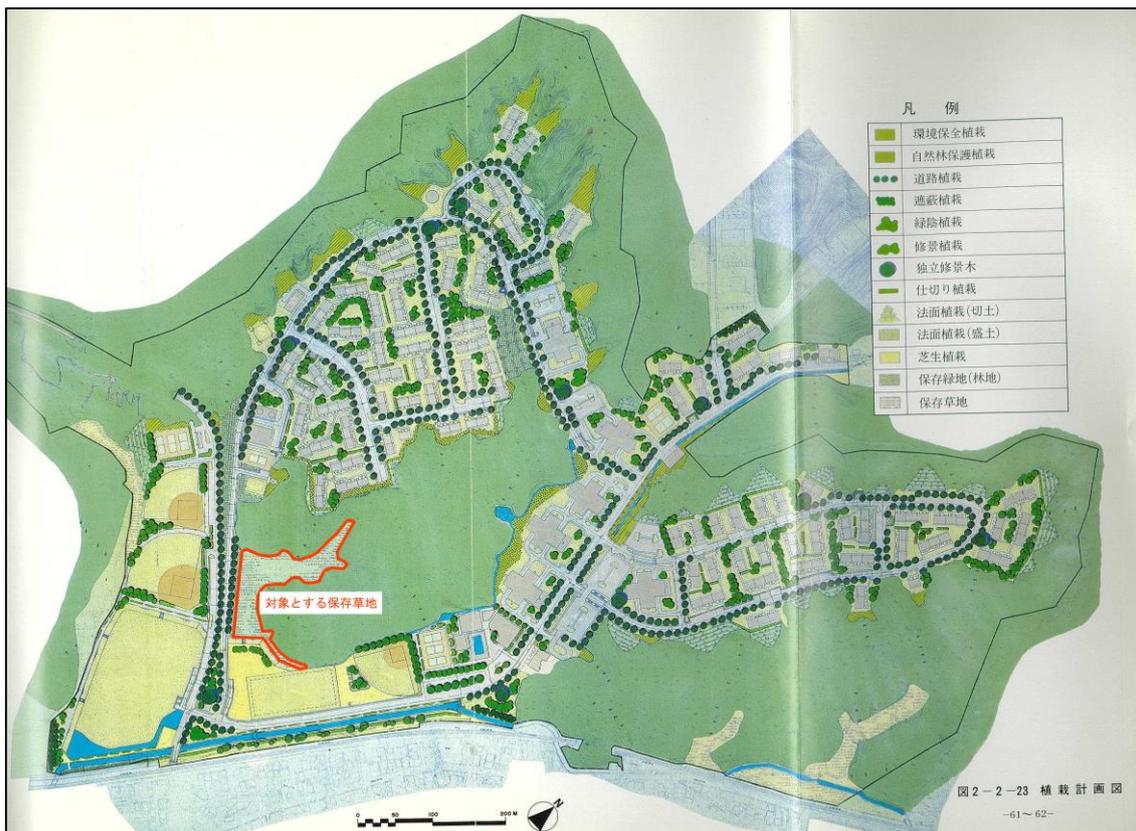
(池子消防署新設工事)

目 次

	頁
1. 調査目的	1
2. 調査方針	3
3. 主な調査対象種	3
3. 1 評価書の現況調査で確認されている貴重種等（計画区域内及び周辺）	3
3. 2 環境監理で確認されている貴重種等（本計画区域内及び周辺）	3
4. 調査方法	4
4. 1 ギンイチモンジセセリ等昆虫調査	4
4. 2 カセンソウ、タコノアシ調査	4
5. 調査結果	5
5. 1 ギンイチモンジセセリ等昆虫調査結果	5
(1) 調査日	5
(2) 確認状況	5
①移植候補地の選定	5
②現地調査結果	8
5. 2 カセンソウ、タコノアシ等植物調査結果	9
(1) 調査日	9
(2) 確認状況	9
①移植候補地の選定	9
②現地調査結果	11
1) 調査区域内の植生の概況	11
2) カセンソウ、タコノアシの確認状況	11
6. 今後の保全方針について	13

1. 調査目的

消防署新設工事の計画区域（以下、計画区域という）において、「池子米軍家族住建設事業 環境影響予測評価書」（S62.9）（以下、評価書という）に示す「保存草地」（図 1-1）を踏査し、動物、植物、生態系の変化等について調査結果をとりまとめることを目的として実施した。計画区域の位置は、図 1-2 に示す。



引用元：「池子米軍家族住宅建設事業 環境影響予測評価書」（S62.9）

図 1-1. 対象とする保存草地位置図

位置図 S=NON SCALE
KEYPLAN



案内図 S=1/5000
LOCATION MAP

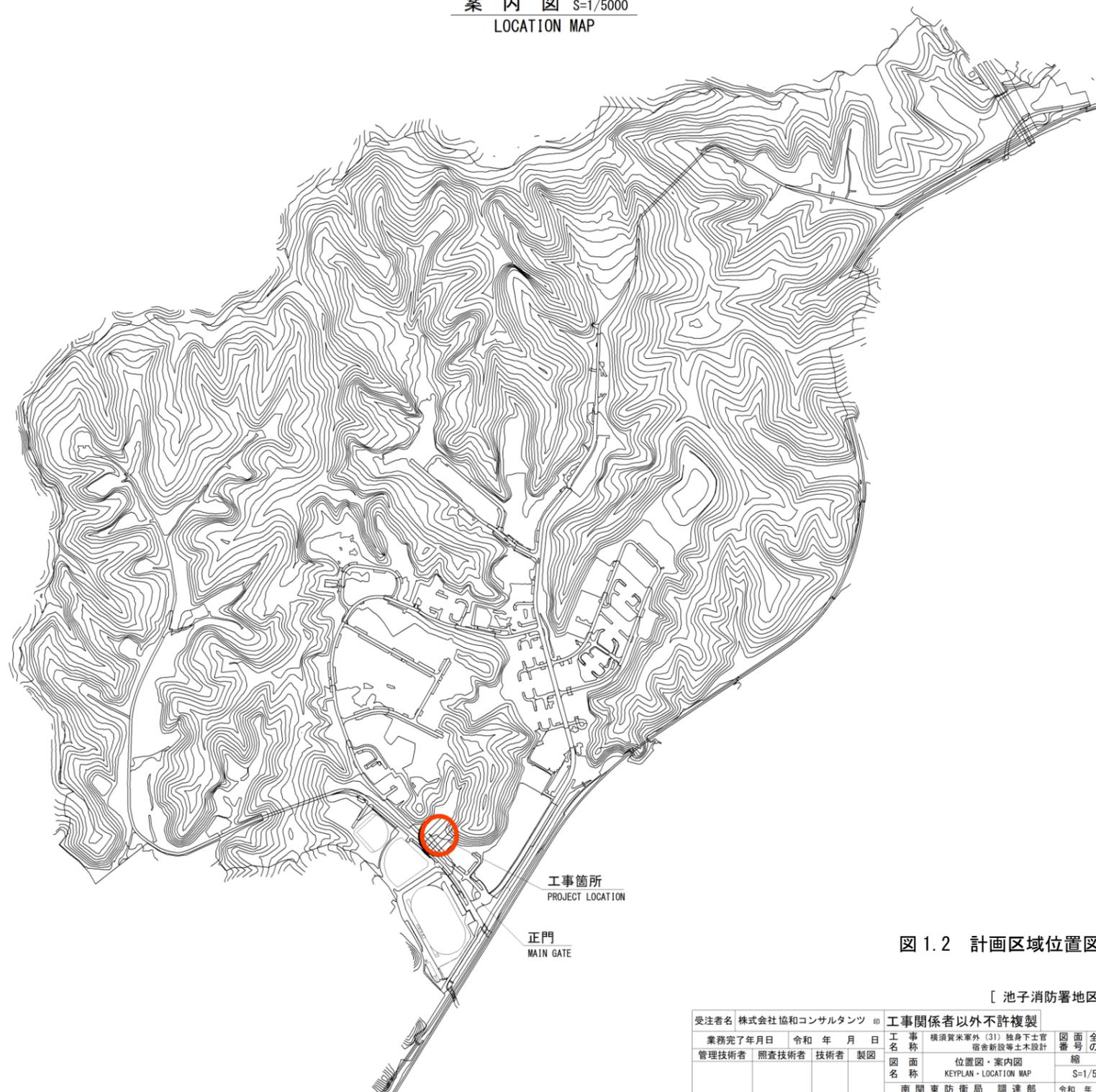


図 1.2 計画区域位置図

[池子消防署地区]

受注者名	株式会社 協和コンサルタンツ 印	工事関係者以外不許複製	
業務完了年月日	令和 年 月 日	横須賀米軍外 (31) 独身下士官 宿舎新設等土木設計	図面全 53 葉 番号の内 7
管理技術者	照査技術者	技術者	製図
		位置図・案内図	縮 尺
		KEYPLAN・LOCATION MAP	S=1/5000
		南関東防衛局 調達部	令和 年 月 日

2. 調査方針

評価書及び「池子米軍家族住宅建設事業に係る環境監理のまとめ（昭和 62 年度～平成 10 年度）報告書」（H11. 3）（以下、環境監理という）において、計画区域及び周辺で確認されている貴重種等を主な対象として、その生息生育状況について、現地調査を実施する。

3. 主な調査対象種

3. 1 評価書の現況調査で確認されている貴重種等（計画区域内及び周辺）

評価書の現況調査における確認状況を整理した結果、本計画区域及びその周辺で確認された貴重種等は下記のとおりであった。

貴重種として該当する種は、昆虫類のギンイチモンジセセリとゲンジボタルであり、その他の項目については、特に該当する種は確認されていなかった。

哺乳類：特になし（S58 年に調査実施）

鳥類：特になし（同上）

両生類・爬虫類：特になし（同上）

昆虫類：ギンイチモンジセセリ（同上）、ゲンジボタル（同上）

陸産貝類・魚類：特になし（同上）

植物：特になし（同上）

3. 2 環境監理で確認されている貴重種等（本計画区域内及び周辺）

評価書が公表された後、昭和 62 年度～平成 10 年度にわたり実施された環境監理及び事後調査における確認状況を整理した結果、本計画区域及びその周辺で確認された貴重種等は下記のとおりであった。

評価書の現況調査で生息が確認されたギンイチモンジセセリは、他の生息地で捕獲された成虫や幼虫も本計画区域に移植されていた。一方、ゲンジボタルについては、別の場所に生息環境が整備され、移植されていた。

また、評価書の現況調査では、植物の貴重種は確認されていなかったが、カセンソウ及びタコノアシが他の生育地から本計画区域に移植されていた。

昆虫類：ギンイチモンジセセリ（S62～H2 年度に移植）、ゲンジボタル（別の場所（中央水路、せせらぎ）を整備し、H4～H9 に移植）

植物：カセンソウ（S62～H9 年度に移植）、タコノアシ（H1～H6 年度に移植）

4. 調査方法

過年度の調査報告を踏まえ、主にギンイチモンジセセリ（環境省：準絶滅危惧、神奈川県：準絶滅危惧）、カセンソウ（環境省：指定なし、神奈川県：絶滅危惧Ⅱ類）、タコノアシ（環境省：準絶滅危惧、神奈川県：指定なし）の生息生育状況の追跡確認を目的とした現地調査を実施するものとした。

4. 1 ギンイチモンジセセリ等昆虫調査

見つけ採り、スウィーピング法、目撃法による調査を行った（表 4-1 参照）。また、ギンイチモンジセセリの食草であるススキやオギ、チガヤなどのイネ科植物の生育状況も合わせて確認を行った。

- ・調査時期および回数：ギンイチモンジセセリの発生時期とされる夏季（6月下旬～7月下旬、8月中旬～9月中旬の計2回）

表 4-1 ギンイチモンジセセリの調査方法

調査方法	写真
<p>調査地周辺を歩き、見つけ採り、スウィーピング法、目撃法などによって昆虫類の確認に努める。</p> <p>○スウィーピング法 捕虫網を振り、草や木の枝をなぎ払うようにして昆虫をすくい採る。</p>	 <p>調査風景（スウィーピング法）</p>

4. 2 カセンソウ、タコノアシ調査

過去に移植が行われた地点を中心に現地踏査を行い、生育状況の確認を行った。

- ・調査時期および回数：カセンソウ及びタコノアシの開花期とされる夏季8月に1回

5. 調査結果

5. 1 ギンイチモンジセセリ等昆虫調査結果

(1) 調査日

- ・現地踏査（移植候補地の選定）：令和3年6月21日（月）晴れ
- ・第1回調査：令和3年7月30日（金）晴れ
- ・第2回調査：令和3年8月10日（月）晴れ

(2) 確認状況

①移植候補地の選定

6月21日に実施した現地踏査の結果、環境監理における移植対象地は、植生の遷移が進み、当該種の生息に適した草地環境が見られなかった。

よって、計画区域周辺を踏査し、幼虫の食草となるイネ科植物が生育し、成虫が飛翔する低茎草地が存在する候補地を選定した。候補地の位置を図5-1に示す。

移植に関する手順は、評価書において検討された下記の手法に準じて移植を行うものとした。なお、計画区域外において確認された場合は、確認位置の記録に留め、移植は行わないものとした。

● ギンイチモンジセセリ移動手順 ●

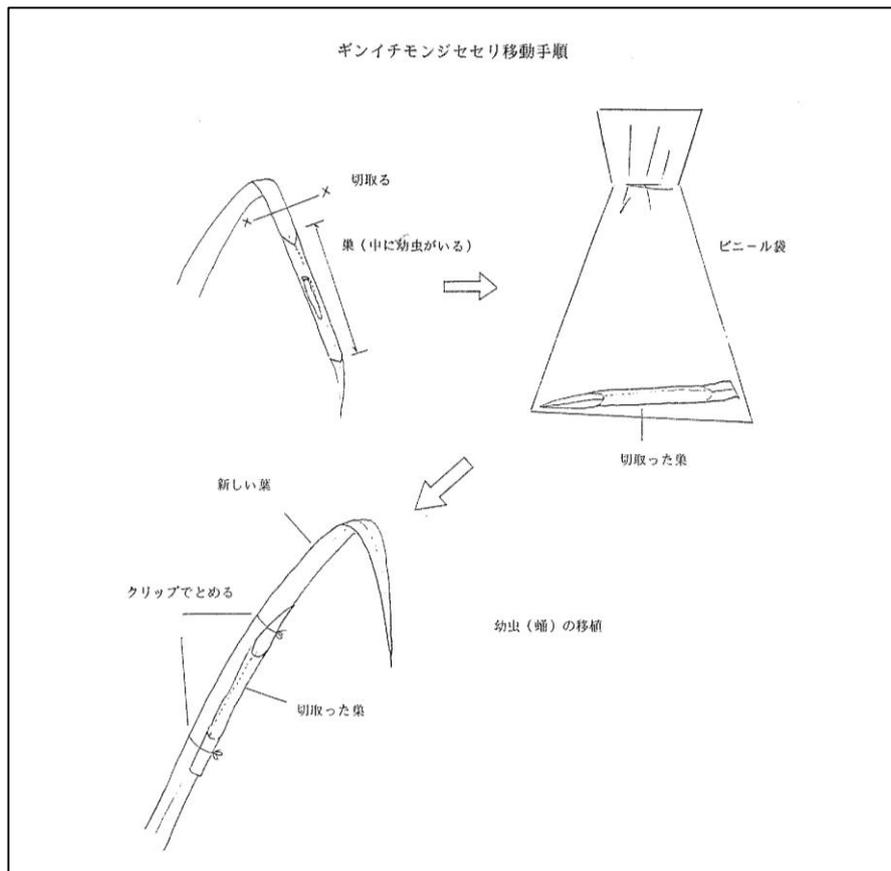
1. 成虫

- ① 現地踏査により実個体（飛翔中あるいは静止中）を発見する。
- ② 捕虫網を用いて捕獲する。その際、翅・脚などを傷つけないように注意する。
- ③ 捕獲した成虫は虫笥などに入れて、速やかに試験地に移動する。
- ④ 試験地に放す。

2. 幼虫（蛹）

- ① 現地踏査により、巣を目印に幼虫（蛹）を発見する。
- ② 発見した幼虫（蛹）は、巣ごと切り取りビニール袋などに移す。その際、巣を切らぬように注意する。
- ③ ビニール袋などに入れた幼虫（蛹）は速やかに試験地に移動する。
- ④ 試験地では、新しい食餌（オギ）に巣をヒモなどで縛り、幼虫の移動を待つ。

※ 巣を切り取る時、幼虫は巢中から出て落下することがあるので、片手で受けるようにする。巢中から出た幼虫は、そのままビニール袋に入れて移動する。試験地のオギの根元に放す。



引用元：「池子米軍家族住宅（61年度）環境影響予測評価書作成準備その他 ギンイチモンジセセリ移植調査報告書」（S62.10）

位置図 S=NON SCALE
KEYPLAN



案内図 S=1/5000
LOCATION MAP

環境監理における移植対象地の現況



<凡 例>

- : 評価書における生息確認地点 (S58)
- : 環境監理における移植対象地 (S62~H2)
- : 本調査における移植候補地 (R3)

移植候補地 1



移植候補地 2

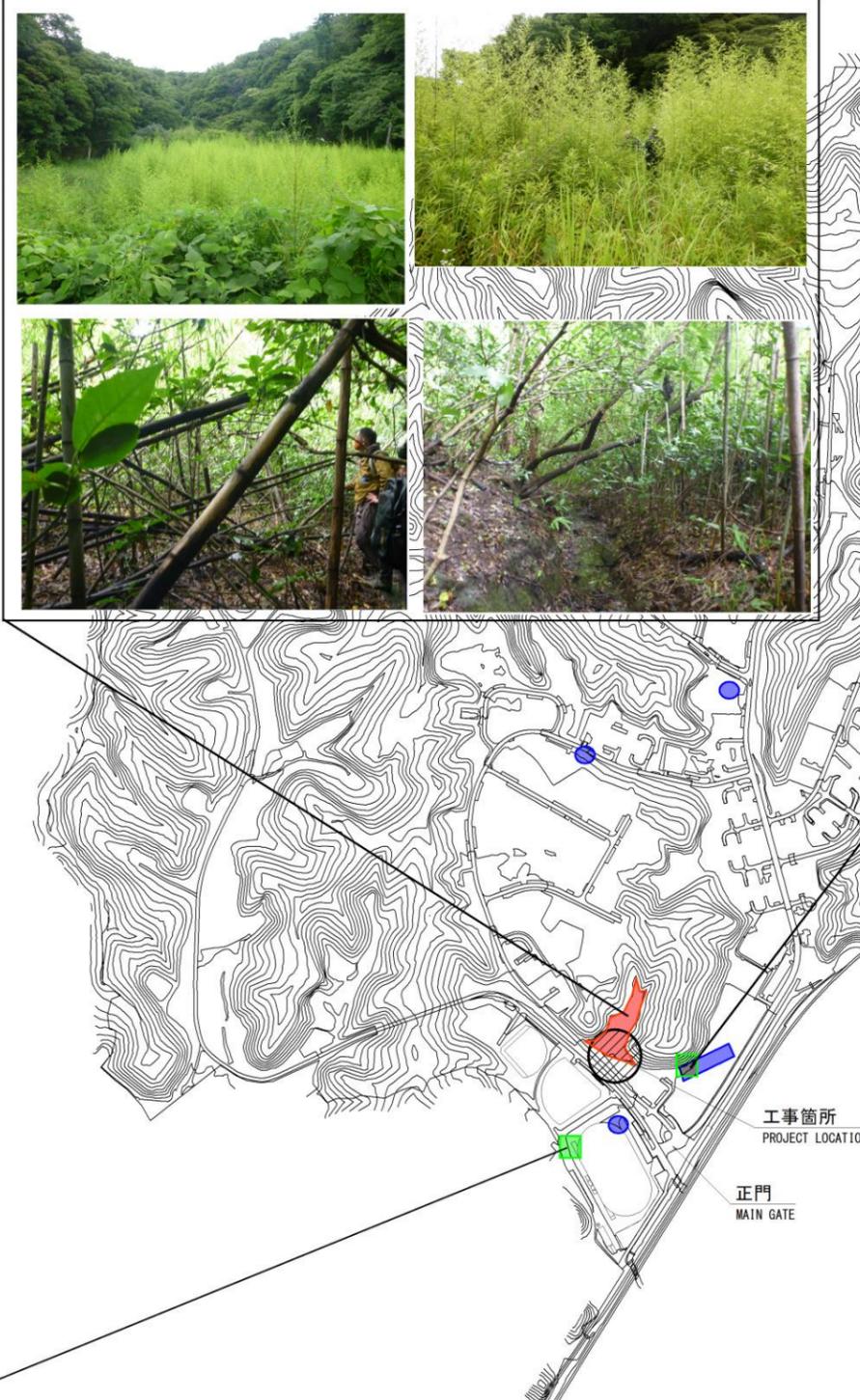


図 5-1 ギンイチモンジセセリ移植候補地位置図

②現地調査結果

7月30日、8月10日の2回、図5-1に示す過去の移植地（環境監理における移植対象地）、過去の生息確認地のほか、現在のギンイチモンジセセリが生息可能と考えられる環境が残っている場所（移植候補地1および2）を対象として確認に努めたが、ギンイチモンジセセリは確認されなかった。

別途8月17日に実施した植物調査の結果からも、現在の谷戸部はマダケが侵入・繁茂し、谷戸内に点在する低地部は湿地となっており、ギンイチモンジセセリが好むオギ群落などの環境は見られなかった。

なお、表5-1に現地調査時に確認された種の一覧を示す。主な確認種は、市街地の草地や樹林地にみられる種であり、特に希少性の高い種は確認されなかった。

表5-1 現地調査時の確認種一覧

	種名	備考		種名	備考
1	ナミアゲハ		20	ミンミンゼミ	
2	カラスアゲハ		21	ヒグラシ	
3	アオスジアゲハ		22	ベッコウハゴロモ	
4	モンシロチョウ		23	アオバハゴロモ	
5	キタキチョウ		24	アワダチソウゲンバイ	
6	アカタテハ	幼虫	25	アメンボ	
7	アカボシゴマダラ		26	ショウリョウバッタ	
8	ヒメウラナミジャノメ		27	オンブバッタ	
9	ウラギンシジミ		28	ツチイナゴ	
10	ベニシジミ		29	ハラヒシバッタ	
11	ヤマトシジミ		30	トビナナフシ科の一種	幼虫
12	ツバメシジミ		31	オオカマキリ	幼虫
13	シオカラトンボ		32	ハラビロカマキリ	幼虫
14	オオシオカラトンボ		33	セグロアシナガバチ	
15	ウスバキトンボ		34	アオメアブ	
16	アブラゼミ		35	クロバネツリアブ	
17	クマゼミ		36	コアオハナムグリ	
18	ニイニイゼミ		37	ウリハムシ	
19	ツクツクボウシ		38	ブタクサハムシ	

5. 2 カセンソウ、タコノアシ等植物調査結果

(1) 調査日

- ・現地踏査1（移植候補地の選定）：令和3年8月10日（月）晴れ
- ・第1回調査：令和3年8月17日（月）小雨

(2) 確認状況

①移植候補地の選定

現地調査の実施前に計画区域周辺を踏査し、タコノアシの生育に適した湿地が存在する候補地を選定した。候補地の位置を図5-2に示す。

候補地は、水路や染み出し水により湿地環境であり、上部を被覆する樹木もない開放空間となっているため日当たりもよく、タコノアシの生育に適していると考えられる。

位置図 S=NON SCALE
KEYPLAN



案内図 S=1/5000
LOCATION MAP

環境監理における移植対象地の現況



<凡 例>

- : 環境監理における移植対象地 (S62~H9)
- : 本調査における移植候補地 (R3)

移植候補地 1



グラウンド側から見た状況



上から見下ろした状況

[池子消防署地区]

移植候補地 2



部分的に湿地となっている

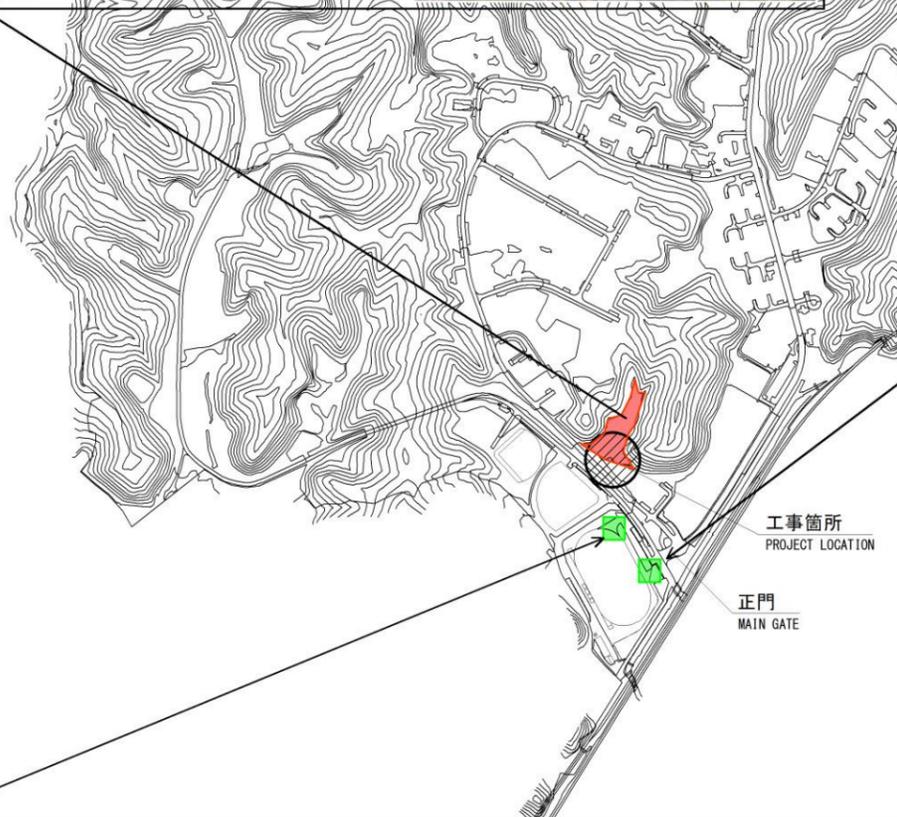


図 5-2 タコノアシ移植候補地位置図

②現地調査結果

1) 調査区域内の植生の概況

調査地域の谷戸部はマダケが侵入・繁茂し、大半が高さ 4~5m程度の竹林となっていた。これらのマダケ林は密生しているため林床にはほとんど光が届かず、クズ、セイタカアワダチソウ、ヨモギ、ガガイモ、ヤブマオ、ドクダミなどが散生している程度であった。

一方、谷戸内に点在する低地部は、滞水しているためマダケが侵入できず、コガマ、ガマ、クサヨシ、ヨシ、オギ、シロバナサクラタデ、セリ、イ等の湿性植物が多くみられた。さらにセイタカアワダチソウ、アメリカセンダングサ、オオブタクサ、ヨモギ、ヤブマメ、ツルマメ、ツユクサ等が混生する草本群落がみられた。

2) カセンソウ、タコノアシの確認状況

現地調査の結果、カセンソウは計画区域内で確認されなかった。

タコノアシは湿性草本群落（高さ 1.5m前後）内の比較的日当たりの良い場所に、複数の株がまとまる形で点在していた。確認位置ごとにテープでマークを施した箇所数を表 5-2、タコノアシの確認位置及び確認状況を図 5-3 に示す。

総株数は 150~200 株になると想定される。なお、湿性地でもガマ、ヨシ、オギなどが高さ 2m以上で繁茂しているような環境では、タコノアシは見られなかった。

表 5-2 タコノアシ確認状況一覧

確認位置	マーキング数
No. 1	28
No. 2	7
No. 3	2
No. 4	15
No. 5	4
No. 6	20
No. 7	6
No. 8	8
No. 9	8
合計	98

現況平面図 S=1/250



写真-1 現地調査実施状況



写真-2 タコノアシ（開花状況）



写真-3 テープによるマーキングの実施状況

図 5-3 タコノアシ確認位置図

6. 今後の保全方針について

現地調査の結果、主な対象種としたギンイチモンジセセリ、カセンソウは確認されず、環境的にも、現在、本種が生息生育している可能性は低いものと考えられる。

一方、タコノアシについては、計画区域内に多数の生育が確認されたため、評価書における保全方針に準じて、改変区域外の安全な場所へ移植を行うことが望ましいと考えられる。

移植に際しては、既存事例などを参考にし、関係機関と協議の上、詳細を検討する。

■タコノアシ移植手法（案）

現在の生育株より種子を採取し、改変区域外に播種を行い、新たな生育地を創出する（播種法）。

- ・ 種子の採取時期：秋季（11月頃（結実期））
- ・ 種子の播種時期：春季（発芽期）
- ・ 種子の播種地：関係機関と協議の上、決定（図 5-2 移植候補地等）